

## 今日のみ言葉 269 「人の思いを知り、言葉を聞いている神」

2017. 5. 17

神は人の思いを知り  
心を正しく見抜き  
人の言葉をすべて聞いておられる。  
主の霊は全地に満ち、  
すべてをつかさどり、あらゆる言葉を知っておられる。

(旧約聖書・続編 知恵の書1の6～7より)

God observes the very soul and accurately surveys the heart, listening to every word.  
Because the spirit of the Lord has filled the world, and that which holds all things together knows what is said,

この世において、自分の思い—考えることや苦しみや悲しみをすべて知っている人間がいるなどとは到底考えられない。たとえ夫婦や兄弟、あるいはキリスト者同士であっても、それぞれの抱えている問題の深さ、難しさなどは到底わからない。

植物の無数の葉の一つとして同じものがないように、私たちの心の世界も全く同じなどということはありません。

科学技術や一般の学問がいかに発達しようとも、それぞれの人の心の奥に何があるのか見抜くことはできない。光が長い年月をかけて到達するような遠い星の成分がわかっていても、なお、すぐそばにいる人の心は分からない。

人間にはこのような決定的な限界がある。しかし、神だけは、私たちすべての人の心を見抜き、その高ぶりや罪も、あるいは良き願いや切実な祈り、また突然の災害や事故、あるいは愛する家族の死などで打ちのめされている心をもすべて知っておられる。

それゆえに、心のうちで悪しきことを考えていても、神はそれを見抜き、そのことに対しても必ず何らかの裁きを与える。そのような心を持ち続けていれば、清いものに感動し、真実なものへの憧れなどが消え、真によきものを味わったり受けられなくなることがその裁きである。

逆に、だれにもわかってもらえない悲しみや苦しみ、訴えも、神だけはわかってくださるし聞いてくださっている。それは、聖書に示されている神は全能であり、しかも正義の神であり、愛の神であるからである。

このような神を信じて、その心の深い思い—苦しみや呻き、また救いの喜びや感謝をありのままに、表しているのが、旧約聖書の詩篇である。

…主よ、わたしの祈りを聞き、助けを求める叫びに耳を傾けてください。わたしの涙に沈黙しないでください。わたしは御もとに身を寄せる者…。 (詩篇39の13)

…主にのみ、わたしは望みをおいていた。主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。

(詩篇40の2)

## 野草と樹木たら クルマユリ（車百合）

秋田駒ヶ岳（標高 1,637m）から湯森山への縦走路にて

2016. 7. 30 撮影



クルマユリは、日本各地に広く分布するオニユリに似た花を付けますが、葉が写真のように、放射状に、車の輻（中心から放射状に出ている棒）のようになっているのでこの名前がついています。

この写真のものは、秋田駒ヶ岳からほとんど人が歩いていない縦走路から少し脇道に入ったところで見いだしたものです。

オニユリは、日本各地の平地に広く見られるのですが、この

クルマユリは、寒冷な地域のものです、本州の中部から東北などの深山～北海道の山、さらに千島や樺太等に見られるものです。

（徳島の剣山などにもあるとされるが稀。）

どこにでも見られるものでなく、何時間も歩いてもどこにも見られないことが多いです。

同じように、平地でなく山地に見られる似たような色のユリに、

コオニユリがあり、その名のように小さく、オニユリのようにムカゴを付けずに種で増えるということです。オニユリはムカゴが落ちると次々と発芽して、毎年増えていきますが、このクルマユリはムカゴもなく、そのように増えないのです。

緑の山野を歩き続け、時折珍しい高山性の花々が見られるなかで、ただ一株だけこのクルマユリが咲いていた。ずっと以前に十和田湖への山道でやはり一株だけ咲いていたのが印象的でした。（幾つかの県では絶滅危惧種に指定されています）

北海道では低い山でも見られ、以前に小樽市の低い山で見かけたことがあります。

このように、ただ一株、赤橙色（オレンジ色）の花が、緑の草原、山野で咲いているのはとても目立つものです。

このような花が一輪咲いているだけで、その周囲の自然がいつそう引き立ちます。

この世界においても、キリストという大いなる花が咲いているだけで、全世界がうるおされてきたのを思います。（文、写真ともT. YOSHIMURA）